

神戸モデル標準服について

1. 経緯

市立中学校の標準服（市立中学校の制服のことをいう。以下、各校独自の制服を「独自標準服」とする。）は、中学校入学時に準備する品目の中で比較的高額であるとともに、原材料の高騰などに伴い、その販売価格が近年上昇傾向にあり、保護者の経済的負担が大きくなっている。

また、女子スラックスを導入していない学校においては、性の多様性への配慮が難しい場合があり、こうした状況を踏まえ、保護者の経済的負担の軽減や性の多様性への配慮などへの対応を目的として令和元年7月に「神戸市立中学校標準服のあり方に関する検討会」を設置した。

令和2年7月には、検討会から様々な課題に対応するために「神戸モデル標準服」（以下「モデル標準服」とする。）を作成することが適切であるとの提言をいただき、この提言を受け、「モデル標準服」の作成を進めている。

2. 現状

令和3年2月の「神戸モデル標準服デザイン選定委員会」（小中学校保護者や中学校生徒、学識経験者等で構成）により6社12案のデザイン提案から4案が選定され、その4案について、小中学校の児童生徒及びその保護者を対象に「モデル標準服」デザイン決定の参考とするため、令和3年6月末まで投票を実施し、ベースとなるデザインが決定した。（参考資料2）

3. 各校での採用について

各中学校での「モデル標準服」の導入については、令和5年度以降において各校の「独自標準服」のモデルチェンジの時期などに生徒や保護者のご意見等を踏まえて各校で判断する。

※導入する際には、導入年度の新1年生を対象とし、既に「独自標準服」を購入している2～3年生は対象としない。また、対象となる新1年生が兄弟などの「独自標準服」を着用することも可能とする。以上を原則として、各校が実情を踏まえた運用を行っていく。

4. 価格について

販売価格については、複数校でデザインを共通とすることによるスケールメリットや生地・機能性の違いによる複数価格帯の設定などによって価格の低減を図っていく。

なお、メーカーへデザインの提案を依頼するにあたり、現行の各校「独自標準服」の平均的価格帯内で入手することが可能なものであること（参考：市立中学校における男女冬服ブレザータイプの平均販売価格帯・上下28,000～29,999円令和2年3月時点。付属品を除いた場合の金額・消費税込み）を条件としており、平均価格以上の学校では価格の低減が期待できる。